

新型コロナウィルスの流行が 博物館入館者動向に与えた影響について

—別府大学の学生を事例に—

福西 大輔*

1. はじめに

新型コロナウィルスの感染拡大に伴い多くの博物館が一時期休館した。こうしたことの影響が如実に現れたのは博物館の入館者数である。日本博物館協会が把握している約4300館に対して、同協会がアンケート調査を実施し、回答のあった約2400館の集計結果によれば、2020年度は入館者数が83,111,850人で、2019年度の171,897,326人に比べて、単純計算で博物館入館者数が約89,000,000人の減少という数が出ている^(註1)。これはコロナ禍1年目のデータとなる。第68回全国博物館大会の分科会でも「コロナ時代の新しい博物館像」というテーマで話し合いがなされ、その中で「原爆の図丸木美術館」が、コロナ禍において休館したことに対する葛藤について報告されている（田口 2021 p.16）。

また、2020年度に日本博物館協会が把握している館で閉館したものは29館あり、同年度は21館新たに建てられているが、増減で考えても博物館は減少していることになる。コロナ禍2年目の2021年度は入館者数が96,837,367人となり、1年目よりも約13,000,000人入館者数は増えているが、コロナ禍以前よりも大幅には減った状態が続いている。

そして、コロナ禍明けの2022年度には入館者数は129,168,687人まで回復している。しかし、2019年度に比べれば約40,000,000人の来館者が減って状況になっている。2022年度は、多くの博物館では運営は通常に近い形に戻っていったが、来館者の数の戻りは遅いことが分かった。こうしたことからコロナ禍が博物館来館者へ何らかの影響を与え、来館者の数を伸ばすのを抑えていると考える。しかし、これらのことについて未だあまり検討されてきていない。

また、コロナ禍では様々な博物館が来館しないで、博物館に来たと同じような体験を人々にさせることができないかと様々な館が模索した。多くの館で見られたのが、インターネットを使った情報配信であり、ホームページやSNSを利用した資料紹介などが行われた。これらの動きを小森真樹は第1を「文字データ圧縮とアーカイブズ発展期」、第2を「ミュージアムサイト搭乗機」、第3を「発信・受信の展示インフラ普及期」とした上で、「第4のミュージアムのデジタル化」と称した（小森 2021 p.20）。実際、広島県立歴史民俗資料館などでは、北海道博物館が呼びかけはじまった「おうちミュージアム」の運動に応じて、インターネットを使った様々な試みを『博物館研究』に報告している（西村 2023 pp.27～30）。

こうした中、2022年に博物館法の改正がなされ、2023年度より施行された。改正された博

*別府大学文学部史学・文化財学科 准教授

物館法では、博物館資料のデジタル・アーカイブスの重要性について言及されるようになった。また、このような動きに合わせて、近年のデジタルトランスフォーメーション（以下、DXとする）の一環として、インターネット上の仮想現実空間に博物館をつくる試みなどが模索されている。「おうちで体験 かはく VR」と名付けられた国立科学博物館のバーチャルミュージアムなどがその先行例として知られている^(註2)。このように現実世界で博物館に行かないでも博物館に行ったと同じような体験ができる方向への模索がコロナ禍の中で急激に進んだ。

これらのこととふまえ、新型コロナウィルスの感染拡大が、博物館来館者の動向にどのような影響を与えたのかを探るべく、アンケート調査を行った。アンケート対象は若者を中心に行なった。若者の動向を分析することにより長期的な視点での博物館入館者動向が見えてくると考えたからである。

具体的には筆者が教鞭をとっている別府大学の学生で、「博物館概論」を受講している者に対して行なったものである。この授業は学芸員課程を受講する学生は必修であり、そのため、将来、博物館で働く学芸員や、それに近い職業を目指す者も多い。また、別府大学の所在する大分県別府市は、地方都市でありながらも比較的に博物館が身近にある。別府市と隣接する市町村には、別府市美術館、大分県立美術館、大分市美術館、大分市歴史資料館、うみたまご、日出町歴史資料館、二階堂美術館などがある。

こうした状況下にある若者たちにコロナ禍がどのような影響を与えたのか、アンケート結果から分析してみたい。

2. アンケート内容

アンケートは、別府大学で行なっている「博物館概論」の授業時間を利用して行なった。博物館法における博物館の概念が分かるようになったGW前後で行なってきた。アンケート対象となつたのは大学2年生以上、20歳前後の学生となった。「プライベートで、昨年度1年間に訪れた博物館法における博物館にあたる施設の名前を書きなさい。訪れなかつた人は、その理由を記しなさい」という問い合わせを行い、その回答を自由記載方式で書いてもらつた。このアンケートの実施日及び回答数は下記の通りである。

2020年度の内容（調査日：2021年5月6日）

アンケート者数111名 その内、無効4名。有効数107名。

2021年度の内容（調査日：2022年4月28日）

アンケート者数86名、その内、無効1名。有効数85名。

2022年度の内容（調査日：2023年4月27日）

アンケート者数70名、その内、無効2名。有効数68名。

2023年度の内容（調査日：2024年5月16日）

アンケート者数82名 その内、無効4名。有効数78名。

※ 無効とは問い合わせと全く関係のない回答が書かれたもの。

3. 4年間の博物館入館者動向

アンケート結果の分析を行う前に新型コロナウィルスの感染拡大とそれに応じた政府の行動規制の動きを確認したい。新型コロナウィルスの感染拡大に伴う行動規制は、これまで次の通り行われた。政府より2020年から2021年にかけて、4回の緊急事態宣言と、2回のまん延防止等重点措置が出された。その内、緊急事態宣言は4回行われた。発出されていた期間をまとめると以下の通りである。

1回目の緊急事態宣言：2020/4/7（火）～2020/5/25（木）

2回目の緊急事態宣言：2021/1/8（金）～2021/3/21（日）

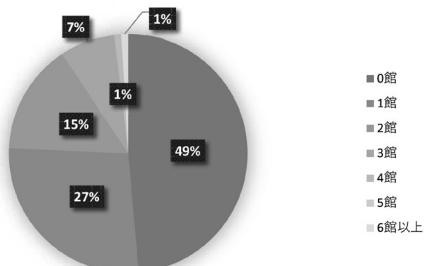
3回目の緊急事態宣言：2021/4/25（日）～2021/6/20（日）

4回目の緊急事態宣言：2021/7/12（月）～2021/9/30（木）

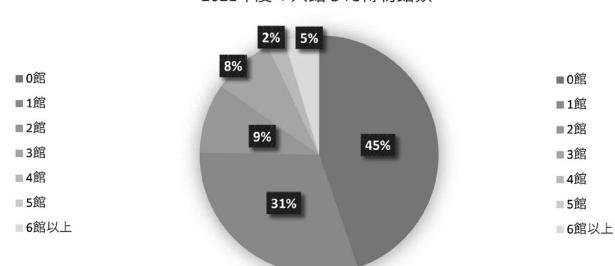
*沖縄県のみ、2021/6/21～2021/7/11の間も緊急事態宣言が継続

2020年度の 入館した博物館数		2021年度の 入館した博物館数		2022年度の 入館した博物館数		2023年度の 入館した博物館数	
1年間に訪れた 博物館の数	学生数	1年間に訪れた 博物館の数	学生数	1年間に訪れた 博物館の数	学生数	1年間に訪れた 博物館の数	学生数
0館	52人	0館	38人	0館	10人	0館	21人
1館	29人	1館	26人	1館	26人	1館	23人
2館	16人	2館	8人	2館	9人	2館	11人
3館	8人	3館	7人	3館	6人	3館	7人
4館	1人	4館	2人	4館	9人	4館	5人
5館	0人	5館	0人	5館	4人	5館	3人
6館以上	1人	6館以上	4人	6館以上	4人	6館以上	8人
総人數	107人	総人數	85人	総人數	68人	総人數	78人

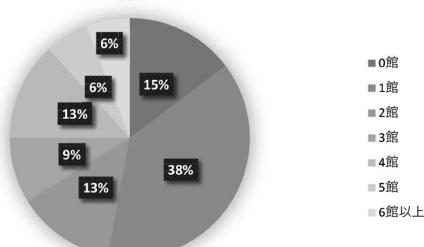
2020年度の入館した博物館数



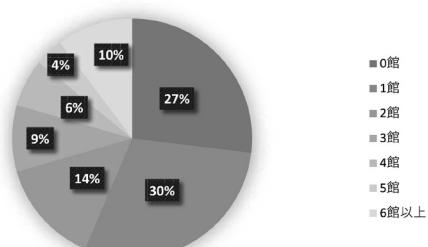
2021年度の入館した博物館数



2022年度の入館した博物館数



2023年度の入館した博物館数



また、まん延防止等重点措置（以下、まん防）が実施されていたのは2回である。

1回目のまん延防止等重点措置：2021/4/5（月）～2021/9/30（木）

2回目のまん延防止等重点措置：2022/1/9（日）～2022/3/21（月）

こうしたことをふまえた上で、アンケート結果を分析していく。まず、1年間に訪れた博物館の数から次のようなことが分かった。2020年度は新型コロナウィルスの感染拡大の影響も大きく、行動制限ともあったこともあり、半分近くの48.6%の学生が一度も博物館にいっていないと回答している。

2021年度になると、その傾向は少し緩和されるが44.3%近くの学生は行っていない。しかし、2020年度とは異なり、博物館に行った者の中には複数の館に行った者も増えてきており、6館以上見学したものが4.7%と出てくるようになった。2022年度になると、1年間、博物館に行っていない学生は14.7%にまで下がった。新型コロナウィルスの感染拡大に伴う行動制限がなくなったことが大きく影響していると考えられる。2022年度は1館のみが38.2%、2館が13.2%であり、過半数の学生が見学を行っている状況になった。6館以上いったものが5.9%であるが、3館から5館までも28%程度いるようになった。ところが、2023年度になると、1年間、博物館に行っていない学生が再び増えはじめ、26.9%まで上がった。自由に何処でも行けるという状況下の中で、博物館に行くことに特別な意味を見出さなくなってきたと考えられる。

次に博物館に行った学生たちが入館した館の所在地を見てみると、2020年度は別府市と周辺市町村（大分市・宇佐市・由布市・日出町）が48.3%で、大分県内（別府市と周辺市町村を除く）が11.2%、隣接県（福岡県・熊本県・宮崎県）が24.7%で、合計で84%程度となり、博物館に行った人も近場で済ませている傾向が伺える。

2021年度になると、別府市と周辺市町村は37.6%まで下がり、県内も4.6%となる。代わって増えていったのが、隣接県が33.9%とその他23.9%である。博物館に行く人は、遠くまで見に行く傾向が出てきていることが分かる。これは行動制限などによって、遠出が出来なかつた反動として、行動制限が緩まったタイミングで博物館に見学を行っていると解釈できる。遠方にいた学生を追跡調査すると、コロナ禍の影響で遠隔授業などが増え、実家に帰った際、博物館に行ったという者がいた。

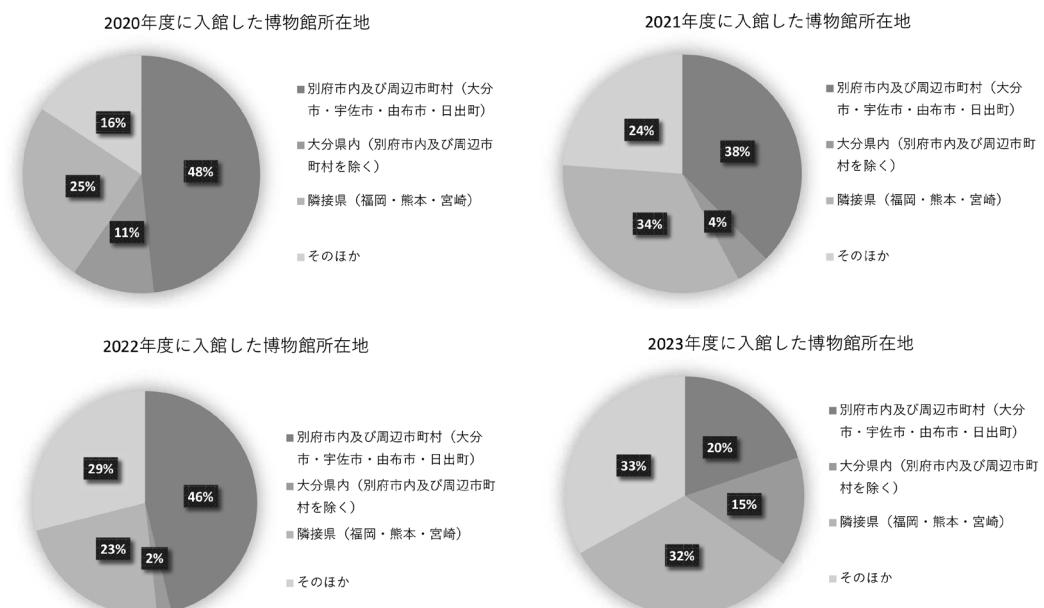
2022年度になると、別府市とその近郊が46%となり、再び身近な博物館に行く者が増えてきている。その影響で隣接県の博物館に行く者の数が、23%まで低下している。行動制限が解禁され、何時でも遠方に行けるという安堵感によるものなのか、遠方にまで行く人が減っている。2023年度になると、大分県に隣接する福岡、熊本、宮崎に行くものが32.4%になり、その内訳をみると福岡に行くものが多い。新型コロナウィルスの感染を心配しないで、大都市部の博物館に行くものが増えたことが分かる。その反動で、別府市内及び周辺市町村の博物館に行く者の数が4年間で最も少ない19.8%まで落ちている。

4. 新型コロナウィルスが与えた博物館の種別傾向

次に博物館に行った学生が入館した博物館の種別を見ると、2020年度は博物館系が43.8%、美術館系が31.4%であり、次いで水族館系が13.5%になっている。動物園系が4.5%、植物園系

2020年度に入館した博物館所在地		2021年度に入館した博物館所在地	
博物館所在地	学生数	博物館所在地	学生数
別府市内及び周辺市町村 (大分市・宇佐市・由布市・日出町)	43人	別府市内及び周辺市町村 (大分市・宇佐市・由布市・日出町)	41人
大分県内 (別府市内及び周辺市町村を除く)	10人	大分県内 (別府市内及び周辺市町村を除く)	5人
隣接県（福岡県・熊本県・宮崎県）	22人	隣接県（福岡県・熊本県・宮崎県）	37人
そのほか	14人	そのほか	26人
延べ人数	89人	延べ人数	109人

2022年度に入館した博物館所在地		2023年度に入館した博物館所在地	
博物館所在地	学生数	博物館所在地	学生数
別府市内及び周辺市町村 (大分市・宇佐市・由布市・日出町)	67人	別府市内及び周辺市町村 (大分市・宇佐市・由布市・日出町)	36人
大分県内 (別府市内及び周辺市町村を除く)	3人	大分県内 (別府市内及び周辺市町村を除く)	27人
隣接県（福岡県・熊本県・宮崎県）	33人	隣接県（福岡県・熊本県・宮崎県）	59人
そのほか	42人	そのほか	60人
延べ人数	145人	延べ人数	182人

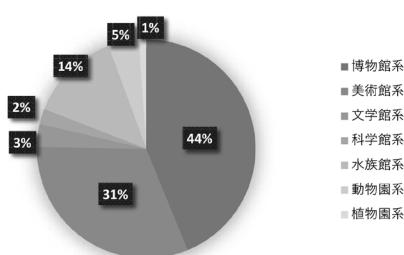


が 1.1% とあり、先の水族館系と合わせると、20% 近くなる。

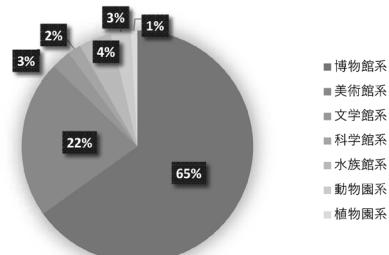
2020 年度は、新型コロナウィルスの感染拡大の行動制限ともない閉館していた博物館や美術館もあったことが一つの背景にはあるが、その一方、積極的に動物園や植物園といった屋外展示を中心とした施設を選んでいる傾向が伺える。これは新型コロナウィルスの感染拡大にともない、少しでも開放的な空間にあるものを選んでいった結果ではないかと考える。

2020年度に入館した博物館種別		2021年度に入館した博物館種別		2022年度に入館した博物館種別		2023年度に入館した博物館種別	
博物館種別	学生数	博物館種別	学生数	博物館種別	学生数	博物館種別	学生数
博物館系	39人	博物館系	71人	博物館系	87人	博物館系	137人
美術館系	28人	美術館系	24人	美術館系	34人	美術館系	31人
文学館系	3人	文学館系	3人	文学館系	0人	文学館系	2人
科学館系	2人	科学館系	2人	科学館系	0人	科学館系	5人
水族館系	12人	水族館系	5人	水族館系	19人	水族館系	6人
動物園系	4人	動物園系	3人	動物園系	4人	動物園系	1人
植物園系	1人	植物園系	1人	植物園系	1人	植物園系	0人
延べ人数	89人	延べ人数	109人	延べ人数	145人	延べ人数	182人

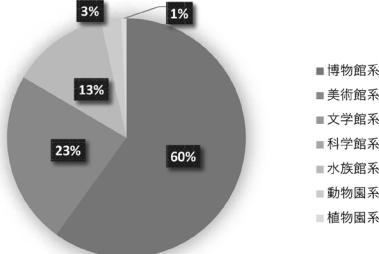
2020年度に入館した博物館種別



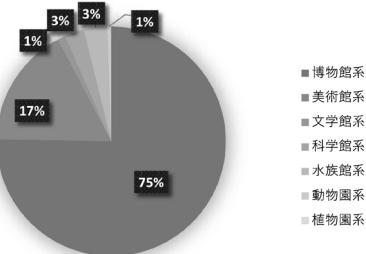
2021年度に入館した博物館種別



2022年度に入館した博物館種



2023年度に入館した博物館種別



また、アンケート調査で水族館系の値が著しく高い理由の一つとしては、別府市に隣接する大分市に「うみたまご」という水族館があり、比較的アクセスが容易であることも要因の一つとして考えられる。「うみたまご」は室内の展示施設もあるが、屋外の展示施設「あそびーち」などが売りの館で、こうした動きに比例した可能性は高い。

それを裏付けるように博物館や美術館といった屋内施設での感染に気をつけながら見学することが行われるようになった2021年度になると、水族館系は4.6%まで減少し、動物園系も2.6%、植物園系も0.9%なり、合わせても10%を切っている。代わりに増えたのが博物館系であり、65.1%まで増えている。新型コロナウィルスに対する正しい理解が広まるにつれて、コロナ禍の中でも屋内施設の利用も増えたと解釈することができる。

2022年度になると、博物館系は60.0%で、美術館系も22.8%と2021年度とあまり変わりがないように見えるが、再び水族館系が13.1%まで巻き返している。友人や家族で遊びに行く

先として選ばれている。行動制限の緩和が結果として表れている。2023年度になると、博物館系は75.2%まで上がり、代わりに水族館が3.2%まで下がった。

その一方、新型コロナウィルスの感染拡大を切っ掛けとして、博物館と距離を置く学生たちが一定層出てくるようになった。

5. 「博物館離れ」という影響

博物館に行かない学生たちの理由を見ると、2020年度の最も多い理由が「新型コロナウィルスの感染が怖いから」となっており、40.3%を占めている。これは、新型コロナ禍の中で、博物館や美術館が空気の循環がない、密閉的な空間という認識や博物館を不要不急の施設として捉えられているところに原因があるのではないかと考える。

2021年度になると、「新型コロナウィルスの感染拡大のため」というものは28.9%まで減少する。代わって急激に増えたのが、「近くにないため」という理由で15.8%まで増えている。その傾向は2022年度まで続き、30%の値を出した。博物館等には行きたいが、感染を恐れて遠出はしたくないという心理が表れている。入館した博物館の所在地の変化もふまえると、2021年度になると、遠くまで見に行く人と、感染を恐れて全くいかなくなったり人に分かれ、二極分化が進んできていることが読み取れる。

また、2021年度に入ると、2020年度にあった「外出する機会がなくなったため」という理由が9.6%から0%になる。新型コロナウィルスの感染拡大に伴う行動制限などあっても緩和された時期に外出していたことが分かる。言い換えれば、外出はするが博物館にはいかないという層が出てきていることになる。ところが、2022年度は10%、2023年度は19%と「外出する機会がなくなったため」を理由にあげる者が増えている。コロナ禍を経て、外出をあまりしない学生たちが出てきていることが分かった。

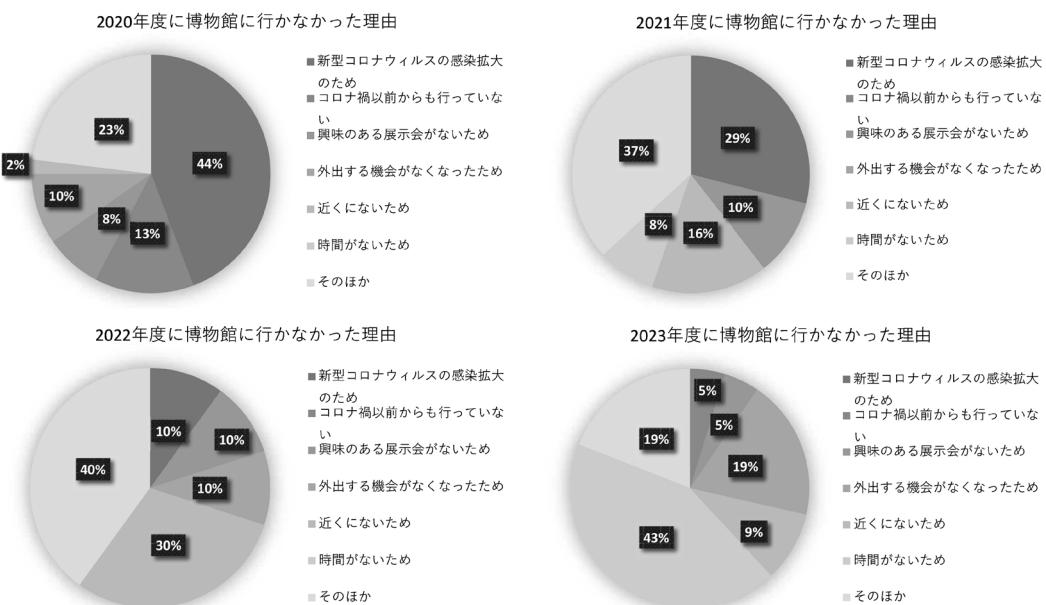
「外出する機会がなくなったため」と同じように2021年度以降になると、博物館に行かない理由として「時間がないため」というものが増え始める。2021年度は7.9%であったが、2023年度は42%まで上がる。日常が戻り、バイトやサークルなどに時間を費やすが、博物館にはいかない学生が増えていったと考えられる。これらのこととは新型コロナウィルスの感染拡大を契機に学生たちの博物館に行く動機付けのハードルが上がったと考えられる。それを裏付けるように博物館に行かない理由として、2020年度では「興味のある展示会がないため」が7.6%だったが、2021年度は10.5%まで上がっている。

新型コロナウィルスの感染拡大の時期に大規模な展示会や巡回展などは、相次いで中止や延期になった。だが、各地の博物館では感染対策を徹底しながら、この時期だからこそその展示会も開催していた。

例えば、江戸東京博物館では2020年8月4日（火）から9月27日（日）にかけて、特別企画「『青』でみる江戸東京」を開催した。新型コロナウィルス感染症とたたかう医療従事者の方々へ感謝の気持ちを表すブルー（青色）をテーマとした展示会で、館蔵品のうち、とくに青が印象的な作品を集めて展示している^{（註3）}。これは2020年3月10日（火）から5月10日（日）まで開催予定だったが、新型コロナウィルス感染症防止のため中止になったものを一部変更の上、開催するものであった。

2020年度に博物館に行かなかった理由		2021年度に博物館に行かなかった理由	
1年間博物館に行かなかった理由	学生数	1年間博物館に行かなかった理由	学生数
新型コロナウィルスの感染拡大のため	23人	新型コロナウィルスの感染拡大のため	11人
コロナ禍以前からも行っていない	7人	コロナ禍以前からも行っていない	0人
興味のある展示会がないため	4人	興味のある展示会がないため	4人
外出する機会がなくなったため	5人	外出する機会がなくなったため	0人
近くにないため	1人	近くにないため	6人
時間がないため	0人	時間がないため	3人
そのほか	12人	そのほか	14人
総人数	52人	総人数	38人

2022年度に博物館に行かなかった理由		2023年度に博物館に行かなかった理由	
1年間博物館に行かなかった理由	学生数	1年間博物館に行かなかった理由	学生数
新型コロナウィルスの感染拡大のため	1人	新型コロナウィルスの感染拡大のため	0人
コロナ禍以前からも行っていない	0人	コロナ禍以前からも行っていない	1人
興味のある展示会がないため	1人	興味のある展示会がないため	1人
外出する機会がなくなったため	1人	外出する機会がなくなったため	4人
近くにないため	3人	近くにないため	2人
時間がないため	0人	時間がないため	9人
そのほか	4人	そのほか	4人
総人数	10人	総人数	21人



また、大阪市立美術館では、2021年6月22日（火）から8月15日（日）まで、「美の殿堂の85年 大阪市立美術館の展示室」を行っている。改修工事にともない展示室が大きく変わることから展示室と展示ケースを見てもう展示会を開催している。作品が展示されていない展示室や作品の入っていない展示ケースが置かれているもので、担当の学芸員によれば、コロナ禍であったこともこの展示会を企画したとも述べている。この斬新な試みは多くの人々に関心を持たれ、ネット記事も多く取り上げられた^(註4)

このように様々な館が、コロナ禍だからこそこの展示会を行った。だが、博物館に行かない学生たちの心には響かなかったようである。その一方、遠くまで見にいった学生がいた要因の一つになっているのは間違いない。2020年度が別府市から離れた遠方にある博物館にいたものを示す「そのほか」が、15.7%だったものが2021年度は23.9%まで上がっている。

6. 終わりに

新型コロナウィルスの感染拡大にともない、学生たちの博物館へ行く動機付けのハードルが上がり、それにより彼らの現実世界の博物館への関心が下がり、コロナ禍明けもその影響はあることが分かった。学生対象のアンケートでは「近くにないため」を理由に博物館に行かない人は2022年の30%がピークだったが、コロナ禍明けでもある2023年度になっても9.5%もいる状態が続いている。

この結果は学生だけでなく、一般社会においても同様な傾向、あるいはより深刻な傾向があるのではないかと考える。アンケート対象であった学生たちは、大学で「博物館概論」という授業を受講しており、潜在的に一般市民よりも博物館への関心度が高い層であったからだ。先に見たように日本博物館協会が毎年出している統計データでもコロナ禍が明けてもコロナ禍以前の入館者数に戻らないこともこうしたことと関係しているように考えられる。

また、新型コロナウィルスの感染拡大を受け、博物館法の改正に合わせ、博物館はDXが求められ、来館しなくて良い博物館の姿や役割が議論され模索され、実現していっていることも少なからず影響していると考える。これらのことも学生たちのアンケートにも反映されている。2023年度の博物館に行かない理由として、「そのほか」の中に「実際に行かなくてもインターネットで調べることができるから」という回答が、4年目にして1名はじめて出てきた。

現在、高度経済成長期に造られた日本の博物館は建物としての寿命も迎えつつあり、リニューアルや見直しが必要となってきている。こうした中、現実世界での「博物館離れ」をどのように捉えていくのかは大きな課題となろう。

また、今回のアンケート調査は若者層に限定したものだったので、世代ごとの傾向についても改めて検討する必要があると思われる。そして近年増えている外国人旅行者の動向についても合わせて検討する必要はある。これらは今後の課題としたい。

註

(註1) 『博物館研究』のVol. 56 No. 4、Vol. 57 No. 4、Vol. 58 No. 4、Vol. 59 No. 4による。

(註2) 「おうちで体験！ かはくVR」

<https://www.kahaku.go.jp/VR/> (アクセス 2024年9月12日)

- (註3) 東京都歴史文化財団「特別展「市民からのおくりもの 2019 —平成30年度 新収蔵品から—」
特別企画「『青』でみる江戸東京」
<https://www.rekibun.or.jp/events/events-24571/> (アクセス 2024年9月11日)
- (註4) Lmaga.jp 「「すっぴんの美術館」って? 大阪で斬新すぎる企画展」
<https://www.lmaga.jp/news/2021/06/267046/> (アクセス 2024年9月11日)

参考文献

- 小森直樹 2021 「コロナ禍で変容する「展示の現場」—第四のミュージアムのデジタル化」日本博物館協会 『博物館研究』 Vol. 56 No. 9
- 田口公則 2021 「コロナ時代の新しい博物館像」 日本博物館協会 『博物館研究』 Vol. 56 No. 3
- 西村直城 2023 「コロナ禍で問われたミュージアムの在り方 広島県立歴史民俗資料館の取組み」 日本博物館協会 『博物館研究』 Vol. 58 No. 10
- 日本博物館協会 2021 「令和元年度 博物館入館者数」『博物館研究』 Vol. 56 No. 4
- 日本博物館協会 2022 「令和2年度 博物館入館者数」『博物館研究』 Vol. 57 No. 4
- 日本博物館協会 2023 「令和3年度 博物館入館者数」『博物館研究』 Vol. 58 No. 4